



市民対話集会2009 報告 テーマ:「高くて大変！」～医療費の窓口負担～

政策部長 宮崎 誠 一

市民対話集会が今年も8月1日、土曜日13:30から15:30までの2時間開催されました。久方ぶりの晴天模様となり、参加者予定者の心変わりもあったようで200名は参加していただき良かったのですが、及びませんでした。

山光札幌市医師会会長のあいさつで、簡潔に自己負担は高いことを説明していただき、会が始まりました。テーマは医療費の高い窓口負担、佐藤のりゆきさんの軽妙なトークと司会で始まりました。パネラーとして、医療法人社団 眞明会 今医院 今 眞人先生、北海道新聞編集部 生活部担当記者 小塚由記夫氏、患者さん代表として、北海道退職公務員連盟 白石・厚別支部幹事長の川畑紘三さん、コーディネータとして政策部担当部長の宮崎が加わり進行了しました。

最初に、医療保険制度の概要の説明を、スライド、プロジェクターで説明しました。1980年代から現在まで医療費は2倍以上に増えていますが、これは平均寿命の改善と医療技術の進歩によるもので、他国と比較して医療費の総額は少なく、それに反し医療費の自己負担は、公的保険、国民皆保険と言われているにもかかわらず昭和58年から始まった自己負担増、特に小泉政権下における、自己責任論のもとに自己負担増が加速したことを示し、他国に比較しても自己負担が多いことを説明しました。また、高い自己負担が受診抑制を来していることを、去年と今年に行った札幌市医師会の外来受診者数、入院患者数等のアンケート調査で示し、札幌市の救急車の出勤状況調査で、受診抑制と症状の重症化を示し説明しました。

引き続きパネラーの方に話していただきました。今先生には実際の医療現場で高い自己負担



のため受診抑制を来し、重症化した症例をスライドで説明していただき参加者の皆さんに、他人事ではないと実感していただきました。今先生には高い自己負担と、これは低額の医療費免責制と、混合診療全面解禁につながっていくということ、スライドを交えて説明していただきました。患者さん代表の川畑さんには、軽妙な語り口で、年金生活者では、医療費の自己負担が増えると、いつの間にか自分の小遣いが減っている、医療費の自己負担は重荷になっているということ、ユーモアを交えて話していただき聴衆の笑いを誘って、雰囲気を和ませていただきました。北海道新聞の小塚さんには、札幌市の国保収支会計が、受診抑制のため、今年度黒字化したことを説明していただきました。

最後に、ボタンを押す2者択一アンケートで、参加者から高い自己負担は重荷になっているという反響をいただき、今後医療費の窓口負担に関し、健康保険、国民健康保険は3割負担から2割に、長寿高齢者に関しては保険料と、自己負担を合わせて1割にという医師会の主張を実現させなければ、との思いを改めて感じました。

